

平成 14 年 4 月 17 日
内閣府国民生活局

平成 13 年度国民生活モニター（3 月実施調査）調査結果

1. 実施期間 平成 14 年 3 月 1 日～3 月 11 日

2. 対象 国民生活モニター 2,300 名
有効回答者数 2,237 名（回収率 97.2%）
〔 男性：225 名、女性：2,012 名
20 代：148 名、30 代：537 名、40 代：543 名
50 代：496 名、60 代：435 名、70 代：78 名 〕

3. 調査目的

「デフレ」といわれる物価の下落が続いている一方で、特にサービスの分野で「日本の物価がまだ高い」と思われる分野がある。

今回は、サービス分野の高コスト構造の是正の検討に資するため、「どういう分野のサービスが内容や質との対比で特に割高と感じているのか」、「家計の負担からみて特にもっと価格が下がって欲しい品目は何か」など消費者の意識について調査を実施した。

4. 調査概要

調査のポイント

価格の下落の著しい品目としては、「外食」(67.4%)、「航空運賃」(45.2%)、「電話・通信代」(30.9%)が上位にあげられている。

価格があまり下がっていない品目ないしむしろ上がっている品目としては、「診察料などの医療サービス」(61.9%)が特に目立って多い。続いて、「習い事などの月謝」(34.6%)、「理容・美容代」(33.6%)、「上下水道代」(32.3%)が多い。

サービスの内容や質との対比で特に割高であると思う品目は「診察料などの医療サービス」が最も多く(47.2%)、その理由としては人件費の高さ(53.6%)があげられている。続いて「理容、美容代」(31.3%)、「有料道路料金」(25.9%)が多い。

家計の負担から特に価格が下がってほしい品目としては、「電気・ガス代」(55.4%)、「診察料などの医療サービス」(49.4%)が半数近くを占めている。

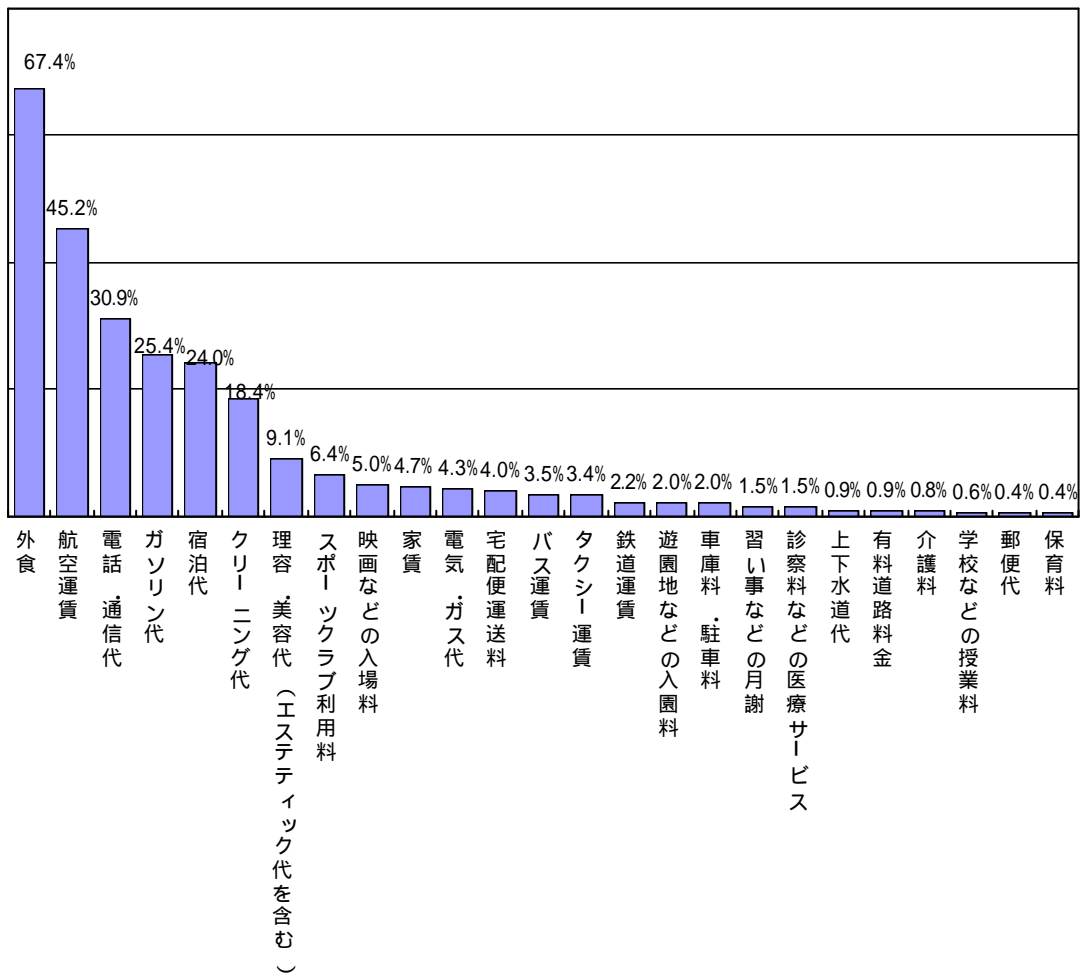
「政府がサービス分野の高コスト構造の是正をさらに進めるべき」と答えた割合は 78.4%となっている。

「内外価格差」という言葉は知っている割合は 73.6%、現在も「内外価格差」があると考えている割合は 83.9%となっている。

「内外価格差」があると考えている理由として、最も多いのは「人の話・ニュースを聞いたり書物を読んだりして」(67.0%)となっている。

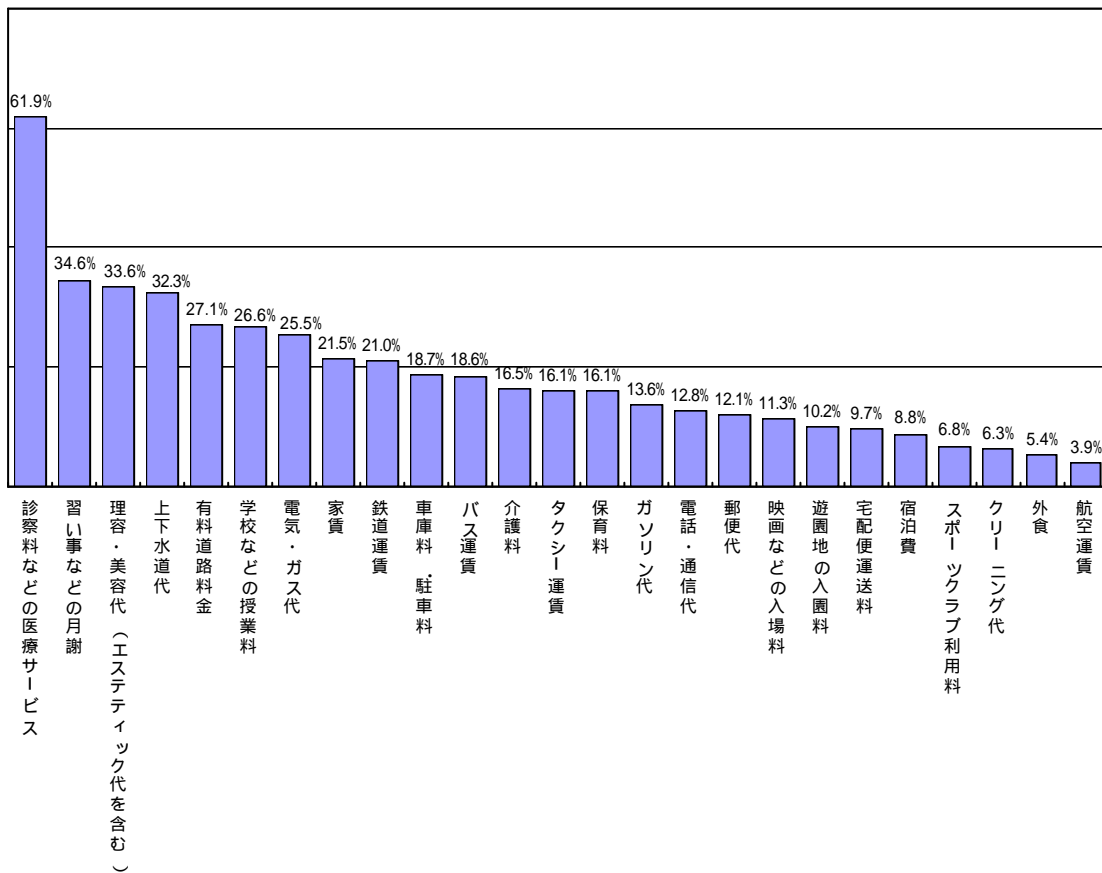
問1 最近、サービス分野で価格の下落が著しい品目としてどのようなものがありますか？
 (複数回答可) (n=2,114)

価格の下落の著しい品目としては、「外食」(67.4%)が最も多い。次に「航空運賃」(45.2%)、「電話・通信代」(30.9%)、「ガソリン代」(25.4%)、「宿泊代」(24.0%)が多い。



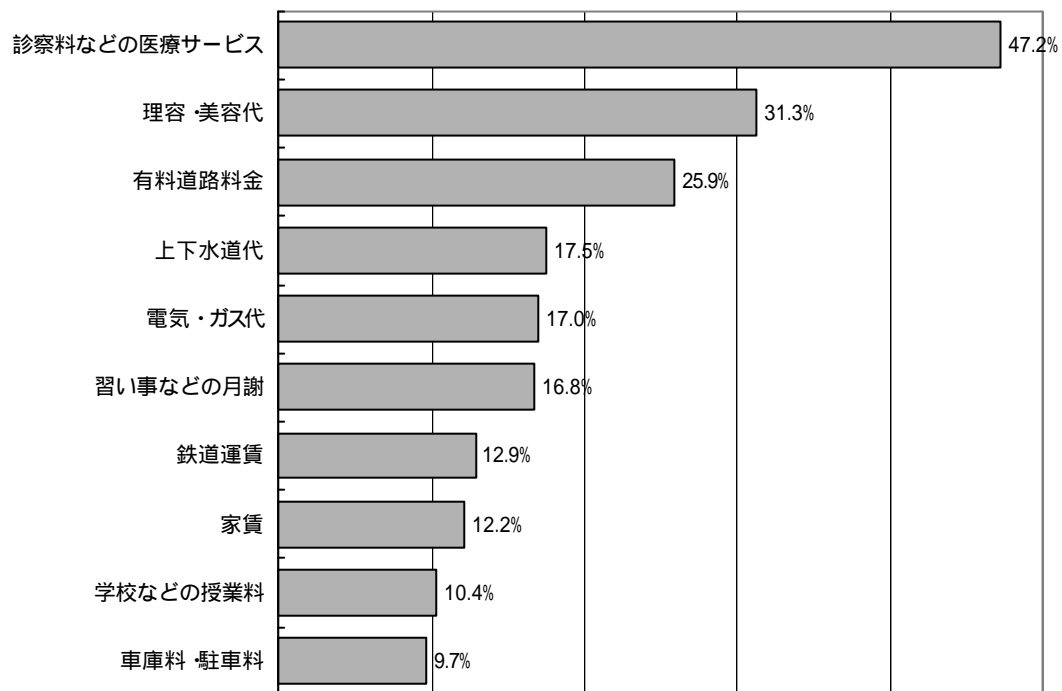
問2 問1とは逆に、最近でも価格があまりさがっていない品目ないしむしろ価格が上がっている品目としてどのようなものがありますか？（複数回答可）（n=2,155）

価格があまりさがっていない品目ないしむしろ価格が上がっている品目としては「診察料などの医療サービス」(61.9%)が最も多い。次に「習い事などの月謝」(34.6%)が多く、その他、「理容・美容代」(33.6%)、「上下水道代」(32.3%)が3割を超えている。



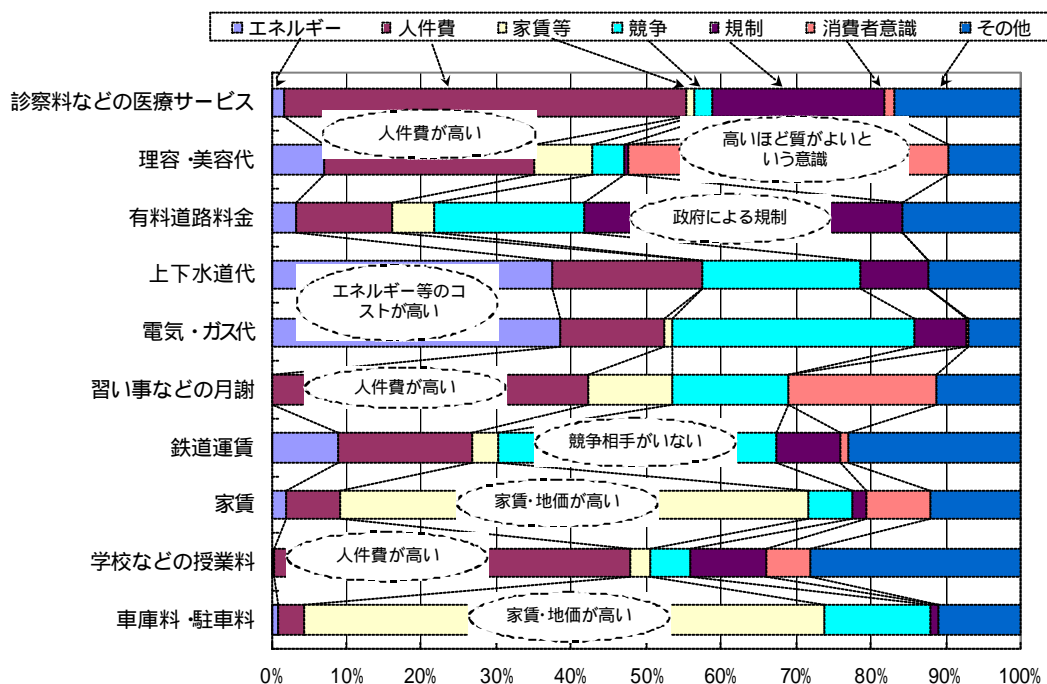
問3 サービスの内容や質との対比で特に割高であると思う品目は上のうちどれですか？問1の選択肢の中から3つ選んでください。また、それぞれについてなぜその品目が割高であると思うのかその理由を下から選んでください。(n=2,169)

サービスの内容や質との対比で特に割高であると思う品目をきいたところ、「診察料などの医療サービス」が最も多く(47.2%)、続いて、「理容・美容代」(31.3%)、「有料道路料金」(25.9%)が多い。続いて、「上下水道代」(17.5%)、「電気・ガス代」(17.0%)などの光熱・水道関係費が多い。



次にそれぞれの品目が割高である理由を聞いたところ、最も割高感を感じている「診察料などの医療サービス」については半数以上が「そのサービスに従事している人の賃金・給料が高い」からと感じている(53.6%)。次に「政府による規制が強すぎる」(22.9%)があげられており、この2つの理由で8割弱を占めている(76.5%)。また、「理容・美容代」に関しては「消費者の一部に価格が高いほど質がよいという誤解がある」(42.6%)、「そのサービスに従事している人の賃金・給料が高い」(28.2%)という理由が多い。「有料道路料金」に関しては、「政府による規制が強すぎる」(42.2%)が最も多く、「近くに競争相手がいない」(20.1%)も2割を超えている。「電気・ガス代」、「上下水道代」に関しては、「そのサービスを生み出すのに必要な光熱・水道などのエネルギーのコストが高い」(それぞれ38.5%、37.4%)、「近くに競争相手がいない」(それぞれ32.2%、21.1%)という理由が多い。「習い事などの月謝」については、「そのサービスに従事している人の賃金・給料が高い」(42.3%)、「消費者の一部に価格が高いほど質が良いという誤解がある」(19.8%)が2割近くの割合を占めている。

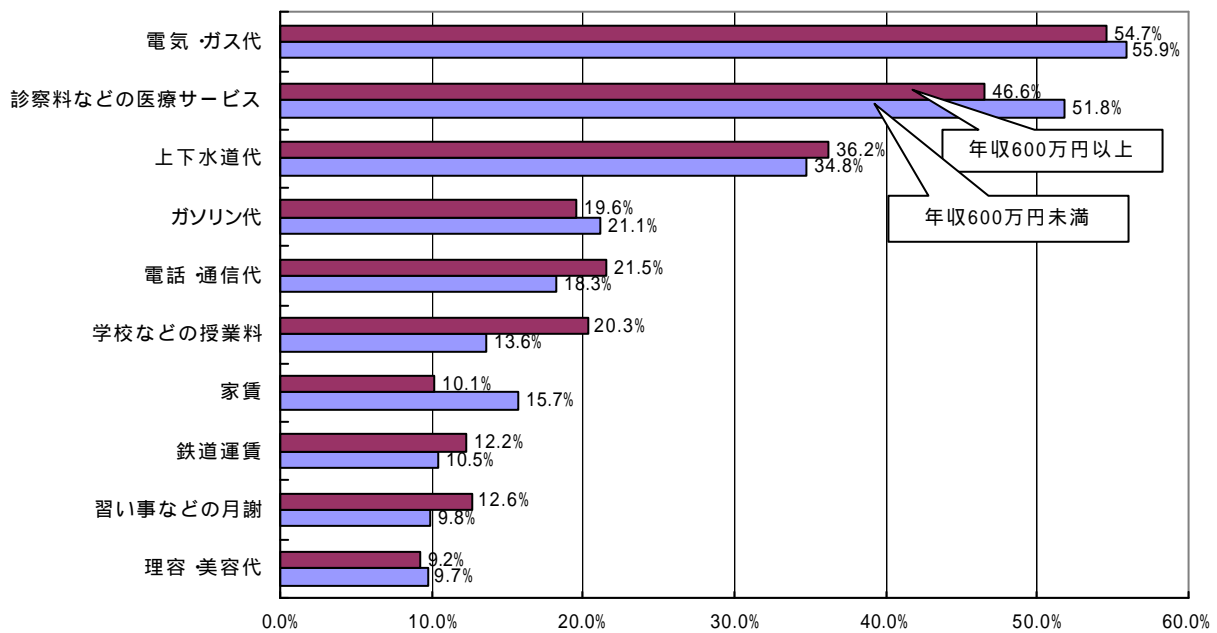
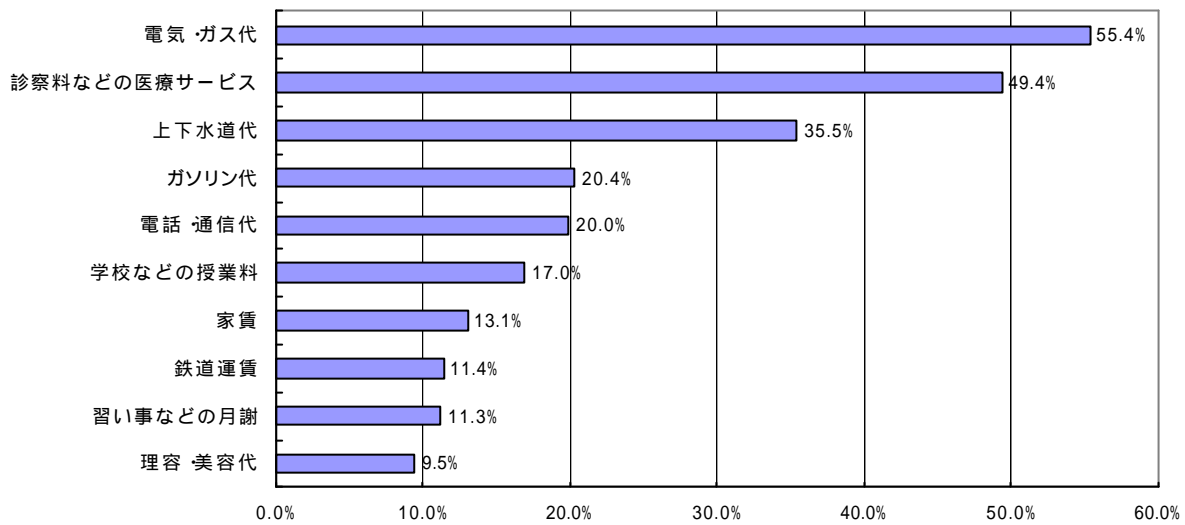
その他では「鉄道運賃」については、「近くに競争相手がいない」(37.1%)、「家賃」については、「そのサービスを提供するのに必要な家賃、地価が高い」(62.5%)、「学校などの授業料」については、「そのサービスに従事している人の賃金・給料が高い」(47.6%)、「車庫料・駐車料」については、「そのサービスを提供するのに必要な家賃、地価が高い」(69.5%)がそれぞれ最も高い割合を占めている。



- 理由
- : そのサービスを生み出すのに必要な光熱・水道などのエネルギーコストが高い
 - : そのサービスに従事している人の賃金・給料等が高い
 - : そのサービスを提供するのに必要な家賃・地価が高い
 - : 近くに競争相手がいない
 - : 政府による規制が強すぎる
 - : 消費者の一部に価格が高いほど質が良いという誤解がある
 - : その他

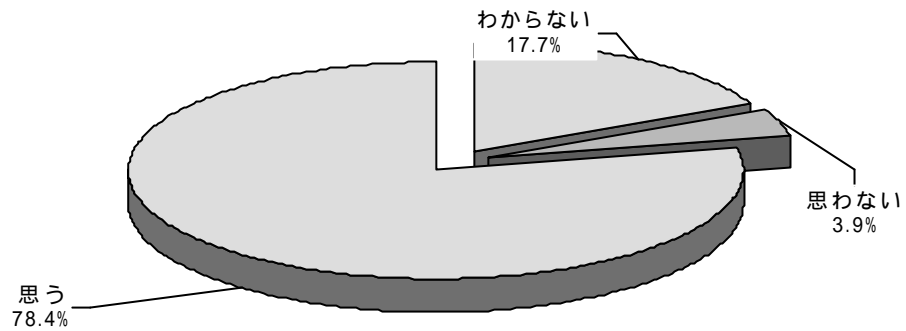
問4 家計の負担からみて、特にもっと価格が下がって欲しい品目はどれですか？問1の選択肢の中から3つ選んで下さい。(n=2,257)

家計の負担から特に価格が下がって欲しい品目を聞いたところ、「電気・ガス代」(55.4%)「診察料などの医療サービス」(49.4%)が特に目立って高い。平均レベルの年収よりも低い世帯では、その割合はさらに高い。



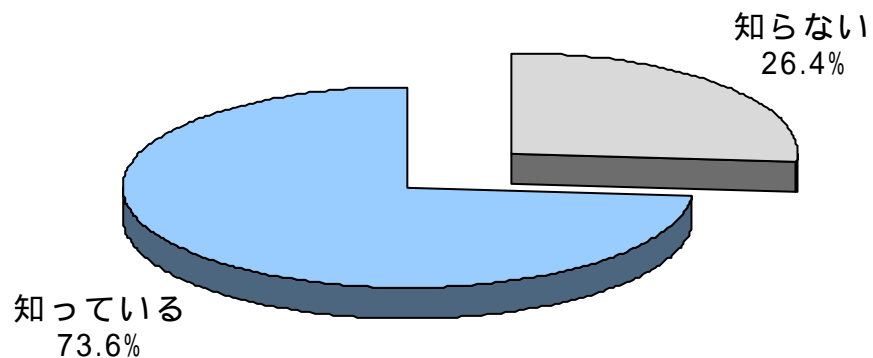
問5 政府はサービス分野の高コスト構造の是正をさらに進めるべきだと思いますか？（n = 2,190）

高コスト構造の是正を進めるべきと答えたのは全体の78.4%である。



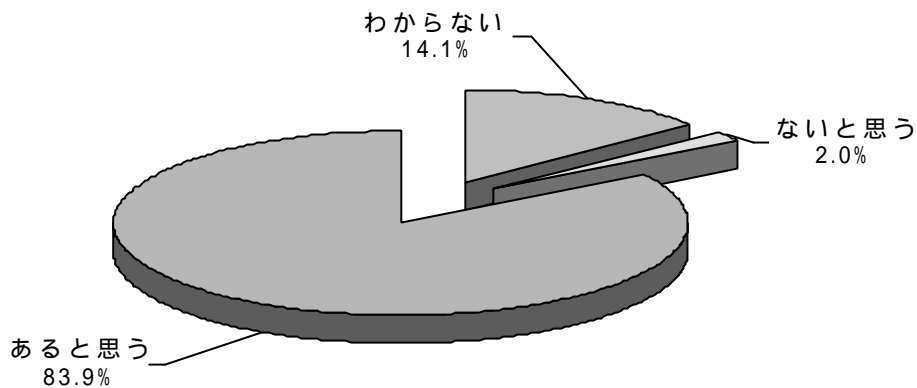
問6 外国に比べて、日本の物価が割高である現象をさして「内外価格差がある」といいます。「内外価格差」という言葉を知っていますか？（n = 2,226）

「内外価格差」という言葉を知っていると回答したのは全体の73.6%である。



問7 今でも日本の方が外国よりも物価が割高である、つまり「内外価格差」があると思いますか？
(n = 2,227)

「内外価格差がある」と答えたのは全体では 83.9%である。「内外価格差がない」と答えたのは、全体で 2.0%にとどまっている。



問8 問7で「1. あると思う」「2. ないと思う」と答えた方にお聞きします。
そのように思う理由は何ですか？

(n = 1,945)

「内外価格差がある」と回答した理由としては「人の話・ニュースを聞いたり、書物を読んだりして」が最も多く(67.0%)、「海外旅行にいったり」は 30.5%であった。年代別にみると 20代のみが「海外旅行にいったり」(50.9%)が高く、「人の話・ニュースを聞いたり、書物を読んだりして」(44.8%)を上回っている。

「内外価格差がない」と回答した理由としては「人の話・ニュースを聞いたり、書物を読んだりして」(51.1%)が最も多く、「何となく」というのは 15.6%であった。

